

2024.06.2. 賛美と祈り 第二歴代誌 20 章

レイトゥ牧師

主よ、私たちはあなたに感謝します。表現できないほど。私たちは本当に感謝しています。祝福されたこの場所をあなたが私たちに与えられ、あなたの御言葉が宣べ伝えられるこの場所に来ることができます。主よ、御言葉が突きつけられ、私たちを試しますが、私たちに教え、成長させ、愛してください。ですから主よ、ありがとうございます。今朝、御言葉を祝福してくださいませんか？ 主よ、今朝、あなたの御言葉を伝えるために、忠実にこの場所に立つレイトゥ牧師を祝福してください。イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。アーメン。

レイトゥ牧師：アローハ！ 会衆：アローハ！ カルバリー・カネオへによろこそ！ ご着席ください。

来週、JD 牧師が戻ってきます！（会衆 1 人だけが反応。）へ？ —（笑）— 来週、JD 牧師が戻ってきます！ 会衆：拍手喝采！ 歓声：ほ〜う！！ JD 牧師と彼の家族の上を守りの垣根があるように祈り続けてください。特に妻ケリーのために。日曜日は、2 つの礼拝があって、8 時半からの礼拝は、JD 牧師が戻ってきたら、「聖書預言・アップデート」で、10 時 45 分からの第二礼拝は、新約聖書を通して学んでいます。来週は、「ヨハネの黙示録」です。週の半ばの学びは、木曜日ここ礼拝堂で、午後 7 時からです。ワクワクする書、旧約聖書「ダニエル書」を学びます。ぜひ木曜日に来てください。毎月第一火曜日、午後 7 時から、ここ礼拝堂（聖域）で、私たちは集まり、教会全体で祈りを捧げます。今朝は、「第二歴代誌」20 章、今日のメッセージのタイトルはシンプルに、『賛美と祈り』にしました。「ヨハネの福音書」15 章、最初の 5 節から始めたいと思います。しかし、その前に、頭を下げ祈り、神に御言葉を祝福していただきましょう。

天のお父様、主よ、あなたの御言葉を感謝します。私たちに教え、導き、案内くださる、あなたのラブレターです。主よ、御言葉は私たちへの人生の指示書です。私たちの多くは、あなたに心を委ねるまで、それを知りませんでした。主よ、私たちがそうする時、あなたが教えられたいことを見、聞くための私たちの心の目を開いてください。ですから、私たちはあなたを愛し、称賛します。あなたの御言葉に感謝します。私たちは決して忘れません。あなたの御言葉は私たちに教えられます。あなたは（神は）、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。・・・それは御子（イエス・キリスト）を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。（ヨハネ 3：16）

私たちはいつも感謝します。ありがとうございます。主よ、決して忘れません。イエスの御名によって祈ります。アーメン。「ヨハネの福音書」15 章 5 節を読みます。

—ヨハネ 15：5—

わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。

同じ章の 10 節の始めから、

—ヨハネ 15：10—

わたしがわたしの父の戒めを守って、父の愛にとどまっているのと同じように、あなたがたもわたしの戒めを守るなら、わたしの愛にとどまっているのです。

—ヨハネ 15：11—

わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたが喜びで満ちあふれるようになるために、わたしはこれらのことをあなたがたに話しました。

—ヨハネ 15：12—

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。

ーヨハネ 15 : 13ー

人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。

イエスは、友の私たちのためにいのちを捧げられました。私たちは祈りによって、ぶどうの木である主とつながることができます。イエスはぶどうの木の本体で、御父とご自分が繋がっておられます。神は、私たち子供たちから話を聞くのが大好きです。私たちの主は、私たちが祈りの民となることを望んでおられます。カルバリー・チャペル・カネ、、、カルバリー・カネオへは、祈りに常に高い優先順位をおきます。この終わりの日、世はどんどん悪化しています。祈りは、信者の人生、教会の命にとって極めて重要です。悪は、私たちの文化に蔓延し、惹きつけます。悪魔的なものに引き寄せられ、私たちの周り全てでそれが分かります。ですから、敵との戦いには祈りが不可欠です。ご存知、私たちは世界中のオンラインから祈りのリクエストのメールを毎日受け取ります。それぞれの祈りのリクエストのために最前線で祈る人たちがいます。私の人生で分かったことは、主との親密な時間からもたらされる勝利です。私の妻ジーニーは祈りの戦士で、主と共にいる時間のおかげで、主から多くの祝福と恵みを受けています。神は私たちから聞かれるのが大好きでられます。短い祈りであれ、長いお願いであれ、神と繋がってください。神に話してください。「第一ヨハネの手紙」5章13節から始まる箇所、ヨハネはこう語ります。

ーIヨハネ 5 : 13ー

神の御子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書いたのは、永遠のいのちを持っていることを、あなたがたに分からせるためです。

ーIヨハネ 5 : 14ー

何事でも神のみこころにしたがって願うなら、神は聞いてくださるということ、これこそ神に対して私たちが抱いている確信です。

ーIヨハネ 5 : 15ー

私たちが願うことは何でも神が聞いてくださると分かるなら、私たちは、神に願い求めたことをすでに手にしていると分かります。

信者として私たちは、天国が私たちの永遠の家であることを知っています。それは神からの約束です。私たちがキリストのうちにある時、ぶどうの木への歩みへとつながり、愛のうちに歩んでいることを私たちはまた知っています。主は御心に従い私たちの祈りに答えてくださいます。私たちにとって何が最善かを神はご存知なので、私たちに必要を与えてくださいます。「詩篇」37篇、4節と5節は語ります。

ー詩篇 37 : 4ー

主を自らの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。

ー詩篇 37 : 5ー

あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。

4節で、「主は私たちの心の願いをかなえてくださる。」私たちの心の欲望ではなく、主は私たちの心の願いをかなえてくださるのです。神は、私たちを傷つけるものは決してお与えになりません。主との関係が深まるにつれて、私たちは自分の人生での神の恩恵をどんどん気付き始めます。私たちが欲しいものはいつも手に入りませんが、主は私たちが必要なものを提供されます。ギターを手にしたのは、24年前に救われた後です。主は私に弾き方を教えてくださいました。神が私の人生にこれを計画されていたことは感じましたが、それが実現するかどうかはわかりませんでした。2年間、1人で練習した後、チャンスの扉が開かれ、私は賛美リーダーになりました。主を待ち望みながら、私は、神が私を必要とされる場所で神に仕えることを誓いました。当時、私はJD牧師を手伝い、教会を開いたり、コーヒーを淹れたり、トイレの詰まりを直しました。JD牧師に尋ねたことはありません。私はJD牧師に、私を賛美リーダーとして考えてほしいと頼んだことはありません。神はすでに、JD牧師の心にそれを置かれていたからです。ある日、JD牧師が来て、教会で

賛美を導くことを祈ってみないか私に尋ねました。主が私を副牧師に召されるまでの16年間、私はこの奉仕をしました。牧師になることは、私が望んだことでも、予期したことでも決してありませんでした。私のメモにはありませんが、ここに立って神の御言葉を教える時、私の膝は震えています。それを考えました。主に仕える24年間において牧師になることは、自分には資格がないといつも思っていました。振り返って、私が認識するのは、私の神学校の経験とは、日々、御言葉を読むことを含め、JD牧師の教えの下で学び、自分のいるまさにその場所で主に仕えること。もっと大切なのは、、私は決して忘れません。以前「エレミヤ書」1章5節で触れましたが、私が生まれる前から、神は私を知っておられ、牧師という召しのために私を備えておられました。それは、私が母の胎で形造られる前から、私の人生への神のご計画でした。神が私たちの望むように祈りに答えてくださらないので、私たちは落胆し、苛立ちを覚えることが多いです。私たちは時として、焦りから神よりも先に進んでしまい、その結果、苦しみを味わいます。私たちは時々、祈ることをあきらめてしまいます。私たちがあきらめたのは、神が時間をかけすぎであられるからですが、神の遅れは、必ずしも神の否定ではないのを理解するようになります。主が私たちの人生でなさることを待ち望むには、忍耐と謙虚さが必要です。私たちはまた、神のタイミングは完璧で、神が私たちの最善の益を考えておられることも学びます。元気を出してください。神はあなたの祈りを聞いてくださいます。今、神があなたを置かれている場所で、神に委ねてください。その祈りと願いは、私たちのタイミングではなく、神のタイミングで実現します。24年前、キリストにあって若い信者の時、礼拝とは、賛美し、礼拝することだと思っていました。礼拝前の称賛と賛美。しかし、キリストを信じる者としての礼拝は、まさに神への心の姿勢です。私たちは神を礼拝します。すべてのものの創造主であられ、支えるお方。私たちは神の子たち、パンに欠くことはない神の子たちとして、神の備えと恵みに感謝せねばなりません。私たちは神を礼拝し、へりくだります。神は高ぶり/高慢、優越を嫌われることを私たちは知っているからです。神は、高慢な者を遠ざけられますが、謙虚な者には恵みを与えられます。私たちの神への信頼を神が愛されることを私たちは知っています。私たちは、人生で物事がうまくいかない逆境の時さえ、神を信頼します。神は私たちに、心配したり不安にならないようにと教えてくださいました。主は、私たちが最善を尽くし、主が私たちの人生に置いてくださった奉仕と召しに最善を尽くしながら、主へ礼拝することを喜んでくださいます。礼拝とは、その愛と恵みと憐れみと赦しに感謝することです。特に、救いに感謝すること。朝、神への語りかけ、夜、神への感謝を、神は愛してください。今、祝福され、変化した人生に感謝します。神が私たちの益を一番に考え、私たちのために全てを働かせてくださることを私たちは知っています。「第二歴代誌」16章9節、お気に入りの1節です。

一II 歴代誌 16 : 9一

主はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、その心がご自分と全く一つになっている人々に御力を現し
てくださるのです。

神は、ご自分を求める姿勢と心を持ち、ご自分を礼拝し、求める姿勢と心を持つ人々を探されます。親として、子供たちが話をしに来てくれるのが大好きです。子どもたちが必要としているときに、来てくれるのが大好きです。ですから、私たちが必要なものを何でも祈り求め、神を礼拝することを、神は喜ばれます。「詩篇」50篇9節から12節で、神は、私たちがすでに知っていることを思い出させてくださいます。神が全てを造られ、所有しておられることを。9節が語ります。

一詩篇 50 : 9一

わたしはあなたの家から雄牛を囲いから雄やぎを 取ろうとしているのではない。

一詩篇 50 : 10一

森のすべての獣はわたしのもの。千の丘の家畜らも。

一詩篇 50 : 11一

わたしは 山の鳥も残らず知っている。野に群がるものたちも わたしのもとにいる。

一詩篇 50 : 12一

たとえ飢えても わたしはあなたに言わない。世界とそれに満ちるものはわたしのものだ。

私の頭ではその数を把握できません。この世にどれだけの動物がいるのか、どれだけの昆虫がいるのか。しかし、神はすべての所有者であられ、一人ひとりを精密に知っておられるからです。アリだってそうですよ。神は、ご自分の子たち、私たちに与えることで私たちに祝福するのを望んでおられます。神は、私たちに代わって強くあられます。この墮落した世に生きることは、クリスチャンにとって歓迎すべき場所ではありません。私たちは、この地上での時間を過ごすために、神の御力が必要です。しかし神は、神を礼拝し、神を掲げ、神を崇拜する忠実な心を求めておられます。信頼でき、献身的、堅実、ひたむき、熱心で、忠実な心を。神は、私たちにご忠実です。聖書の御言葉に記される私たちとの約束を守ってくださるからです。神は神で、愛、称賛と礼拝にふさわしいお方。神は、私たちの賛美を通して神を礼拝することを愛してください。もちろん。神は、あなたの神への賛美を愛しておられます。以前の賛美リーダーとして、賛美することを勧めます。賛美の時、歌ってください。初めてカルバリーチャペルに足を踏み入れ、初めて賛美を聞いた時のことを覚えています。キリストのうちにあって新しく造られた者として、救われて1週間後、古いものは過ぎ去りました。(II コリント 5 : 17 参照)

私は主にあって赤ん坊でした。神と聖書について何も知りませんでした。しかし、賛美を聴き、歌詞を見た時、私は泣き出さざるを得ませんでした。その歌は私にとって初めてでしたが、賛美のメッセージは本当に心に響きました。だから歌いました。これが教会での初めての日で、説教を聞きました。再び、私はすすり泣きました。救われる前に私が人生で望んでいたことが、すべて実現しつつ、現実になりました。私はアルコール依存症で、変わりたいと望んだだけでなく、変わる必要がありました。前に話したように、断酒して24年になります。再度、初めてカルバリー・チャペルに行った時のことを昨日のことにように思い出します。私はさらに神を礼拝し、神に賛美するのを願います。私たちは賛美する時、イエスへの礼拝と愛を表しているのです。私たちは木曜日と日曜日の説教の前に、キリストの体にあつての交わりとして賛美します。私たちは、主を礼拝、称賛し、掲げ賛美します。私たちはイエスの御名を掲げます。メッセージを受け取るため、神が私たちの心を整えてくださっている時、私たちは賛美します。私が賛美リーダーとして最初に賛美した1曲が「光の父」でした。ジュディを探しています。彼女は私と一緒に賛美したのです。コーラスはこのようです。「すべての良いこと、完璧な贈り物はあなた(主)から来ます。すべての良いこと、完璧な贈り物が神からもたらされ、私たちがそのことを知っているのなら、なぜ神を賛美し褒め称えたくないというの？」アーメン。賛美のような祈りはいつでも、どこでも、できます。若者たちを教えていた時、私はいつも通勤途中のトラックの中で賛美すると子供たちに話しました。仕事に行く途中、自分のトラックの中で賛美し、運転しながら、目を閉じて祈りました。ー(笑)ー最初はショックを受けたような顔をされました。でも、子供たちは私が冗談を言っているだけだと気づきました。私の最高の賛美の時間は、運転中でした。道を走りながら、神のことを思い、ただ賛美することが何度もあります。皆さんも同じことをしますね。オンラインの皆さんも同様に。すると突然、涙が溢れ出します。涙が出るのは、24年前の自分を思い出すからです。カポノが、イエスへの賛美を導く時、教会でキリストの体の賛美を聞くのが大好きです。同様にオンラインの皆さんが賛美されているのを知っていますから、やめないでください。あなたが賛美し、私たちみんなの賛美を、主が愛しておられることを知っています。どんな理由であれ、賛美するのが好きではない人がいることは理解します。恥ずかしいだけで自分の中で歌っているかもしれません。とにかく自由に参加されることを祈ります。神は賛美されるにふさわしいお方だからです。この箇所「第二歴代誌」20章を見ましょう。1節が語ります。

ーII 歴代誌 20 : 1ー

その後のことであつた。モアブ人とアンモン人、および彼らに合流した一部のアンモン人が、ヨシャファテと戦おうとして攻めて来た。

ーII 歴代誌 20 : 2ー

すると、人々は来て、ヨシャファテに次のように告げた。「海の向こうのアラムから、大軍があなたに向かって攻めて来ました。早くも、彼らはハツェツォン・タマル、すなわちエン・ゲディに來ています。」

ですから、神の民に対して大軍が迫ってきます。彼らは戦争を仕掛け、神が民に与えられたユダの地を奪お

うとします。イスラエルの民、ユダヤ人の。アンモン人とモアブ人は、アブラハムの甥、ロトの子孫でした。アブラハムはユダヤ民族の父です。ヨシヤファテは、このユダヤ人国家イスラエルの王です。イスラエルの歴史を通じて、アンモン人とモアブ人は、いつもユダヤ人を悩ませました。彼らは常に脅威であり、神の民の永遠の敵です。イスラエルの民に敵対するこれら大軍は、遠い従兄弟同士でした。のちの子孫たちが、この土地を奪い、征服しようとしています。アブラハムに、彼の子孫がそこに住むため与えられた約束の地です。アブラハムの子孫で、約束された種（たね）、イエス・キリストが来られました。2節によれば、彼らはシリアから来ます。こんにち、シリアではロシアとイランの勢力が拡大しています。ニュースでよく目にしますね。イスラエルは2つの前線で戦っています。「第二歴代誌」のこの箇所では、シリアが舞台です。シリアは、JD牧師が「エゼキエル書」38章の預言で教えた舞台です。世界中の国々がイスラエルへの侵攻を企てています。私たちはすでに、その結果がどうなるかを知っています。同様にクリスチャンも周囲を敵に囲まれています。サタンによって送り込まれた悪霊たちは、私たちの人生を動揺させ邪魔し続けます。敵は常に攻撃してきます。私たちがこの章を学ぶとき、私の願いと祈りは、皆さんがヨシヤファテ王の人生と経験によって励まされることです。困難は至る所にあります。しかし、神は、いつもそうであられるように、その真っ只中におられます。3節と4節で、

Ⅱ 歴代誌 20：3

ヨシヤファテは恐れた。そして心に決めて主を求め、ユダの全土に断食を呼びかけた。

Ⅱ 歴代誌 20：4

ユダの人々は集まって来て、主の助けを求めた。実にユダのすべての町から人々が来て、主を求めたのである。

悪い知らせにヨシヤファテの最初の反応は恐れでした。彼は恐れましたが、恐れの中で正しいことをしました。まず神に呼び求めました。ヨシヤファテは神に近づき、祈りで神を求めます。そして、全イスラエルの民に祈りと断食を呼びかけました。ヨシヤファテ王は恐れしました。同様に、極端な試練が来ると、私たちは恐れます。聖書は、私たちが中心人物だと考える人たちの弱さや欠点を、聖句の中で明らかにします。ダビデ王が思い浮かびます。私たちのように、ダビデもまた、困難が来ると心配しました。それが私たちを励まします。聖書の中で神が子供たちに何度も勝利を与えられるのを見、読むからです。逆境の中での勝利。強烈な逆境です。私の人生で、神は多くの試練に勝利を与えてくださいました。他の試練がやって来た時、不安も警戒もしませんが、それでも恐れを感じます。今日の学びの4節はこう語ります。

「ユダのすべての町から人々が来て、主を求めたのである。」(Ⅱ 歴代誌 20：4 参照)

神に献身した指導者の力強い証しです。その結果、人々は王に従いました。ヨシヤファテの父はアサ王です。アサは敬虔な王で、父アビヤム王が放棄した信仰深い改革を取り戻しました。イスラエルの民が神へ立ち返るのを見るのは良いことでした。イスラエルは偶像崇拝に背を向けました。この国、アメリカ合衆国で起きているのを見ると心が痛みます。携挙が近いことがよくわかります。私は、預言的にこれらのことが実現せねばならないことを知っています。聖書は、人々が神から離れていくことを背教と呼びます。小学生の頃、毎日「忠誠の誓い」を復唱したのを覚えています。覚えている人は何人いますか？ 私たちの毎日の復唱に、どのように神と一緒にいられたか？こんにち、この国を見渡すと、共通しているのは不服従と反逆です。特に、神への。こんにち、この国の大半はイエスを社会から排除しようとしています。しかし、ここでヨシヤファテ王は、真の生ける神を礼拝します。王は民に、神への敬虔と称賛を示させました。この苦難の時に、王は民に祈りと断食を呼びかけました。この礼拝堂（聖域）にいる、オンラインにいる皆さんの多くが、人生での心配や、恐れに対処しています。神の御言葉が語るのを私たちは知っていますが、まだ恐れを感じます。「ピリピ人への手紙」4章6節と7節は語ります。

Ⅱ ピリピ 4：6

何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

Ⅱ ピリピ 4：7

そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

数年前、私はステージ3の腎臓病だとわかりました。うろたえ、恐怖が襲いました。この病気のことがわからなければ、余命3カ月くらいだったと思います。それ以来、私はそれを管理することを学び、神は私に、ユダヤ人の腎臓専門医ノア・ソロモンという名の医者を与えてくださいました。この医師の名がノア・ソロモンだとわかった時、「主よ、感謝します。」と言いました。定期的に検査しますが、行くたびにステージ3のままです。移植を受けない限り、腎臓病は治りません。そのステージのままです。しかし、神がそうなさいます。この世の命だけでなく、永遠のいのちのために。あなたや私がこの人生でどんな経験をしようとも、神が癒しをもたらしてくださることを私は知っています。神が超自然的に私たちを癒すことがお得意になることを知っています。しかし、神は油を注がれ、癒しの賜物を与えられた医者を用いることを選ばれるかもしれません。神は、私たちへの癒しを選ばれないかもしれません。しかし、私たちの霊的な癒しを、ただ思い出し、感謝してください。私たちは神の霊によって新生/生まれ変わり、携挙の準備ができ、天国に行きます。聖書は語ります。天国にはもう痛みも苦しみもありません。(黙示録 21:4 参照)

神が代わりに私たちを家に連れて行かれるかもしれません。そうすれば、この世の苦しみを避けられます。私たちが天国でイエスと一緒にいる間、イエスがこの地上で私たちの愛する人たちの面倒をみてくださることを私は知っています。ですから私たちは、この地上で現在の苦しみを経験する時、私たちには、この祝福に満ちた望みがあります。(テトス 2:13 参照)

この祝福に満ちた望みは、神からの保証だけでなく、神からの約束です。「第一ペテロの手紙」1章3節から6節は語ります。

—I ペテロ 1:3—

私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせ、生ける望みを持たせてくださいました。

—I ペテロ 1:4—

また、朽ちることも、汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これらは、あなたがたのために天に蓄えられています。

—I ペテロ 1:5—

あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりの時に現されるように用意されている救いをいただくのです。

—I ペテロ 1:6—

そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいますが、今しばらくの間、様々な試練の中で悲しまなければならぬのですが、

地球と呼ばれるこの場所は、私たちの家ではないですね。ここで過ごす時間は、神にとって、ほんの一瞬に過ぎません。永遠に比べれば、私たちの試練はほんの一瞬ですが、苦しんでいる皆さんの助けにならないのはわかります。あなたが経験する傷や痛みは、残念です。今日ここにいる、そしてオンラインの多くの人たちがつらい時を過ごしていることは知っています。今日の礼拝の後、祈りが必要な方には、油を注ぎ、祈ります。オンラインの皆さん、教会に出席されるなら、牧師や長老に油を注いでもらい、祈ってもらいましょう。聖書に書かれているこの実践の先例は、「ヤコブ書5章」にあります。オンラインの皆さん、教会に出席されない方は、メールください。祈りの戦士たちがあなたのために祈ります。聖徒の皆さん、元気を出してください。あなたが経験している試練や苦しみを。私たちはもうすぐ家に帰れます。今日の学びの5節と6節、

—II 歴代誌 20:5—

ヨシャファテは、主の宮にある新しい庭の前で、ユダとエルサレムの集団の中に立って、

—II 歴代誌 20 : 6—

こう言った。「私たちの父祖の神、主よ。あなたは天におられる神ではありませんか。あなたはすべての異邦の王国を支配なさる方ではありませんか。あなたの御手には勢いと力があり、あなたに立ち向かえる者はだれもいません。

—II 歴代誌 20 : 7—

私たちの神よ。あなたは、この地の住民をあなたの民イスラエルの前から追い払い、とこしえにあなたの友アブラハムの裔にお与えになったのではありませんか。

—II 歴代誌 20 : 8—

彼らはそこに住み、あなたのため、御名のために、そこに聖所を建てて言いました。

—II 歴代誌 20 : 9—

『もし、さばきの剣、疫病、飢饉などのわざわいが私たちを襲うなら、私たちはこの宮の前、あなたの御前に立ちます。あなたの御名がこの宮にあるからです。そして、私たちは苦難の中からあなたに叫びます。あなたは聞いて、お救いくださいます。』

ヨシャファテは民の前で神を称え、賛美によって礼拝しました。王はイスラエルの民への神の愛と、神が過去にイスラエルをどのように救い出されたかを思い起こしました。王として、ヨシャファテは再び自分の国を救ってくださるよう神に求めます。7 節で、ヨシャファテは、神が決してお忘れにならなかったことを主に思い出させます。カナンに住む人々の極端な邪悪と悪のせいで、神は、彼らを取り除き、この地をアブラハムの子孫に与えられました。神の選民、イスラエル国家を神が置かれる場所でした。神が御言葉の聖書を世に送り出すために用いられた民と国です。彼らを通して、世の救世主、救い主キリストが、誕生されました。イエスの母マリアは若い敬虔なユダヤ人母です。ヨシャファテはこの美しい建物の中に立ちます。エルサレムの神殿はソロモン王によって建てられました。ヨシャファテは神殿に立ち、声の限りに主に嘆願しました。こんにち、イエスの犠牲ゆえに、救いは信仰によって可能になるだけでなく、神が祈りを聞かれるのに、私たちは宮や教会にいる必要はありません。もはや、自分の罪を取り除くために、祈るために祭司のところに行く必要はありません。あなたは今、神と直接話すことで、神に直接つながることができます。私たちはいつでも、どこでも祈ることができます。イエスが十字架上で息を引き取られる時、至聖所と神殿を隔てる幕が裂けました。この幕は高さ 60 フィート (約 180 cm)、厚さ 4 インチ (約 10 cm) ありました。青、紫、緋色の生地の上質の亜麻布で作られていました。この幕を裂くことは誰にも不可能でした。イエスが十字架上で息を引き取られたとき、神はこの幕を上から下まで真っ二つに裂かれました。その背後の意味と象徴は、人類が神に直接近付けるようになったこと。コミュニケーションをとるために、宮や祭司のところに行く必要はなくなりました。あなたは真の生ける神とコミュニケーションできます。「ヘブル人への手紙」10 章 19 節と 20 節は語ります。

—ヘブル 10 : 19—

こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。

—ヘブル 10 : 20—

イエスのご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。

私たちは神の御座に直接近づけます。私たちは直接、神と話せます。私たちの学びの箇所、10 節と 11 節は語ります。

—II 歴代誌 20 : 10—

ところが今、アンモン人、モアブ人、およびセイル山の人々をご覧ください。かつてイスラエルがエジプトの地から出て来たとき、あなたは彼らの地に入っていくことをお許しになりませんでした。それで、イスラエルは彼らを選び、彼らを滅ぼさなかったのです。

—II 歴代誌 20 : 11—

ご覧ください。彼らが私たちにしようとしていることを。彼らは、あなたが私たちに相続させてくださったあなたの所有地から、私たちに追い払おうとしてやって来たのです。

「民数記」20章14節から21節で、イスラエルの民は、約束の地に行くためにエドムへの近道をしたかった。彼らはエジプトを出て紅海を渡り、約束の地を目指す旅に出たばかりでした。エドムの王は、イスラエルの民を自分の土地を通過させませんでした。モーセは、必要な水の代価を払うと言いましたが、エドムの王は従兄弟たちに水を拒みました。エドム人はユダヤ人の従兄弟でしたが、ユダヤ人を通さず、水を売ることさえもしませんでした。怒ったイスラエルの民は、この地の侵略を望みました。しかし、神は、「ダメだ/ノー」と仰いました。神が岩を通して水を、食料としてマナを与えてくださったことを私たちは知っています。イスラエルの民が自分たちの土地を通過するのを拒否したのと同じ人々が、ユダを侵略しようと、ヨシヤファテ王を倒しイスラエルの土地を奪おうとしています。彼らは神を恐れず、その態度からそれが分かります。彼らは自分たちの土地を取り戻したかったのです。神が彼らを取り除かれた地です。それは神の民、私たちにとっても同じです。神は私たちの人生に勝利を与えてくださいますが、敵は誘惑や試練によって圧力を強めます。イエスが取られ、敵はなくした領土を取り戻したいのです。悪魔は、肉と悪魔の世から離れた信者の人生を取り戻したいのです。12節と13節は語ります。

—II 歴代誌 20 : 12—

私たちの神よ。彼らをさばいてくださらないのですか。攻めて来るこの大軍に当たる力は、私たちにありません。私たちとしては、どうすればよいのか分かりません。ただ、あなたに目を注ぐのみです。」

—II 歴代誌 20 : 13—

ユダの人々はみな主の前に立っていた。彼らの幼子たち、妻たち、子どもたちもともにいた。

ヨシヤファテは、自分が誰を愛し礼拝するのか、神に謙虚に認めました。ヨシヤファテと彼の国は十分に強くはありませんでした。敵は、数では優位で、イスラエルは滅ぼされる可能性があります。「しかし、主よ、私はあなたが誰であられるか知っています。信仰によって、私はあなたが私たちに救い出してくださいを期待し、信頼します。」ヨシヤファテ王は言いました。「あなたは過去にもイスラエルを救い出された。私たちは再びあなたに期待します。私たちはどうすればよいのか分かりません。しかし、あなたは神であられ、私たちはあなたの民です。私たちはあなたに依り頼みます。あなたがおできになると私たちはわかるからです。ですから、私たちの目をあなたに集中し、あなたの守りと助けを嘆願しに参りました。」「ゼカリヤ書」2章8節は、イスラエルを攻撃する者、イスラエルに敵対する者は、神の御目に敵対する者であると語ります。彼らは神の最も大切な所有物に反逆しに来て、イスラエルに問題です。あなたは人生で困難な時期を経験していて、それがあなたにとって重荷になっているのかもしれませんが。神に任せてください。神を見てください。どうすればよいかわからないと告白してください。クリスチャン信者として、あなたは神の最も大切な所有物です。神はあなたを愛しておられます。御自分のひとり子イエスをあなたに与えられるため、御子を遣わされました。私たちは、神が私たちに愛し、気にかけてくださっているという事実を見失いがちです。逆境のときこそ、主を仰ぐことを忘れないでください。宇宙の創造主がどれほどあなたを愛されているかを思い出してください。神は、あなたが母の胎内に形造られる前からあなたをご存知でした。(エレミヤ 1 : 5 参照)

あなたは神の選ばれた所有物で、神はあなたの人生に大きな偉大なご計画を持っておられることを忘れないでください。万物の創造主の御前で祈り、へりくだってください。主を礼拝し、そう、主に向かって賛美するのです。神の御業を傍観してください。神があなたのために戦ってくださいからです。神は待っておられます。ですから、ためらわないでください。イエスに目を向け、勝利を待ってください。13節では、イスラエルの民が神の御前に立っています。私たちは、ヤコブが家族全員を兄エサウの前に連れてきた時のことを

思い出します。ヤコブは、エサウにした過ちをなだめたかったのです。(創世記 33章参照)

神はいつもそうされるように、兄の目に好意をお与えになり、エサウは何事もなくヤコブを受け入れました。ヨシヤファテもまた、神の御前に民全体を見せました。しかし、神はすでに何をなさるかをご存知で、神は、御自分の民が賛美と祈りでひとつになるのをご覧になるのが大好きで愛されました。

一II 歴代誌 20:14

ときに、主の霊が会衆の中で、アサフ族の出であるレビ人ヤハジエルの上に臨んだ。彼はマタンヤの子エイエルの子ベナヤの子ゼカリヤの子である。

ヤハジエルは先祖アサフと同じレビ人でした。アサフもまた、ダビデ王のもとで賛美リーダーでした。アサフは「詩篇」の多くを書きました。私のお気に入りのひとつは、アサフが書いた「詩篇 73 篇」です。彼らは神殿で多くの職務を監督する祭司でした。その職務のひとつが、楽器で礼拝と賛美を導くことでした。私はこの節が大好きです。神は、ヨシヤファテ王の嘆願に、一人の青年、若いレビ人を通して語られ、答えられたからです。神の聖霊は、、、神の聖霊は、賛美リーダーでもあるこの祭司を通して語られました。教会で若い人たちを見るのは祝福です。私は若い世代が主を礼拝するのを見るのが大好きです。私が主のみもとに辿り着いたのは 45 歳の初老のときでしたから、、、。心はまだ若いですよ。あなたは、神がヨシヤファテに直接語りかけられたと思いますね。しかし、アサフのように、ヤハジエルは本当に神のために身を捧げ、神は彼の心を知っておられました。聖書には理由は語られませんが、ヨシヤファテは、、、失礼、ヤハジエルは、神が語りかけられる器でした。大胆に、自信を持って、ヤハジエルは語ります。ヤハジエルは、神が彼に語らせたことを語ります。

一II 歴代誌 20:15

彼は言った。「ユダのすべての人々、エルサレムの住民、およびヨシヤファテ王よ、よく聞いてください。主はあなたがたにこう言われます。『この大軍のゆえに恐れてはならない。おののいてはならない。これはあなたがたの戦いではなく、神の戦いである。』

一II 歴代誌 20:16

明日、彼らのところに攻め下れ。見よ、彼らはツイツの坂を上って来る。あなたがたはエルエルの荒野の前、谷の外れで彼らに出会う。

なんて神からの励ましの言葉なのでしょう。この若いレビ人が預言を始めたので、ヨシヤファテ王が驚いたのを確信します。しかし同時に、神がこの若者に語られたので、王は励まされました。神は仰いました。

「恐れてはならない。」(レビ 20:17 参照)

「この戦いは、あなたがたが戦うのではない。」(レビ 20:17 参照)

神は仰います。「わたしがあなたのために戦う。」ヤハジエルの言葉を疑う者もいたでしょう。「申命記」18章 20 節から 22 節は語ります。

一申命記 18:20

ただし、預言者であっても、わたしが告げよと命じていないことを、不遜にもわたしの名によって告げたり、あるいは、ほかの神々の名によって告げたりする者がいるなら、その預言者は死ななければならない。」

一申命記 18:21

あなたが心の中で、「私たちは主が語られたのではないことばを、どのようにして知ることができるだろうか」と言うような場合、

一申命記 18:22

預言者が主の名によって語っても、そのことが起こらず、実現しないなら、それは主が語られたことばではない。その預言者が不遜にもそれを語ったのである。

彼におびえることはない。ですからヤハジエルは大胆にも、神が、、、自分が神のために語ることを宣言しました。ヤハジエルは、神のために偽りを語れば死刑になるという聖典を知っています。しかし、ヤハジエルはレビ人で、神の御言葉を知っています。自分の言うことが実現しなければ、命を失う可能性があることを彼は知っています。彼は大きなチャンスを手にはしていますが、どうすることもできません。聖霊が彼を通して語っておられるのです。ヤハジエルは語らねばなりませんでした。恐れで黙り聖霊に背くか、それとも声を上げて立ち止まり、神が働かれるのを見守るか。もし神が語るように召されるなら、「いいえ/ノー」と言うてはいけません。私が福音を人々に伝えるのが好きなのはご存知ですね。彼らが「はい。」と言って、救われたいと言う時、祝福です。でも、言うのが恥ずかしいのですが、私は話す機会があったのに口を開かなかったことがあります。特に良い知らせを伝える時、神が私たちに話すように召された時、私たちが常に信仰によって踏み出し、話すことを祈ります。17 節から 19 節 (21 節)、

一II 歴代誌 20 : 17ー

堅く立って、あなたがたとともにおられる主の救いを見よ。ユダとエルサレムよ、恐れてはならない。おののいてはならない。明日、彼らに向かって出陣せよ。主はあなたがたとともにおられる。』

一II 歴代誌 20 : 18ー

ヨシャファテは地にひれ伏し、ユダのすべての人々とエルサレムの住民も主の前にひれ伏して、主を礼拝した。

一II 歴代誌 20 : 19ー

ケハテの子孫、コラの子孫であるレビ人たちは立ち上がり、大声をあげてイスラエルの神、主を賛美した。

一II 歴代誌 20 : 20ー

こうして、彼らは翌朝早く、テコアの荒野へ出陣した。出陣のとき、ヨシャファテは立ち上がって言った。「ユダおよびエルサレムの住民よ、私の言うことを聞け。あなたがたの神、主を信じなさい。そうすれば、あなたがたは堅く立つことができる。主の預言者たちを信じ、勝利を得よ。」

一II 歴代誌 20 : 21ー

彼は民と相談し、主に向かって歌う者たちと、聖なる装いをして賛美する者たちとを任命した。・・・

もう一度読ませてください。彼は民と相談し、主に向かって歌う者たちと、

聖なる装いをして賛美する者たちとを任命した。彼らが武装した者の前に行き、こう言うためであった。「主に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。」

21 節はデカイです。ヨシャファテ王は、賛美チームと賛美する者たちを任命し、軍を率いて戦いに赴かせます。賛美の曲を通して、彼らは戦いの前に神を褒め称え、崇拜し、賛美しました。彼らが戦っているのは霊的な戦場です。目に見えない霊的な戦いですが、それは現実です。どんな戦いの前にも、神を認め、賛美する必要があります。カポノが私たちを賛美で導くとき、私たちは神の御言葉の教えを聞く準備をしながら、賛美を通して目の前の敵と戦ってくださるよう神にお願いします。敵は、神が私たちに教えようとされていることを聞かせないように、私たちの注意をそらさたいのです。

一II 歴代誌 20 : 22ー

彼らが喜びと賛美の声をあげ始めると、主は伏兵を設けて、ユダに攻めて来たアンモン人、モアブ人、セイル山の人々を襲わせたので、彼らは打ち負かされた。

カルバリー・カネオへで私たちがすることは、すべて聖書に基づきます。つまり、聖書に書かれていないな

ら、私たちはしない。教えない。私たちは礼拝の初めに賛美し、主に感謝し、主を褒め称え、主が教えてくださることを聞くために心を整えます。それが、カポノとディビッドが牧師の教えの前に、賛美をする理由です。牧師たちはいつも祈り、神の御言葉においての時間を祝福し、神の御心や神のご指示を学ぶことができるよう神に求めます。賛美、祈り、御言葉の教えを通して、私たちのために敵と戦ってくださるよう神にお願いします。23 節と 24 節、

一II 歴代誌 20 : 23ー

アンモン人とモアブ人は、セイル山の住民たちに立ち向かい、これを絶滅させ、根絶やしにした。セイルの住民を滅ぼし尽くすと、彼らは互いに戦って滅ぼし合った。

一II 歴代誌 20 : 24ー

ユダの人々が、荒野に面した見張り場の上って、その大軍の方を見渡すと、なんと、死体が野に転がっていた。逃れた者は一人もいなかった。

違う部族の敵がいます。彼らはヨシャファテ王を打ち負かすために手を組みましたが、神が彼らを互いに攻撃させられました。互いに完全に滅ぼし合いました。一人も残りませんでした。25 節、

一II 歴代誌 20 : 25ー

ヨシャファテとその民が分捕り物を奪いに行くと、そこで数多くの武具、衣服、高価な器具を見つけたので、運びきれないほどはぎ取った。分捕り物があまりにも多かったので、奪うのに三日もかかった。

聖書には、神がどのように敵同士を戦わせたかは書かれていません。部族間の古くからの恨みが戦いの日に噴出したのかもしれませんが。聖句に書かれているのは、神の民が祈り、断食し、賛美し続け、神が勝利を与えられたこと。イスラエル軍は剣を振り上げることも、盾や槍を振り上げることもありませんでした。イスラエルの民は、ヤハジエルの語りに従い、勝利を与えられました。神は約束どおり、イスラエルの民のために戦ってくださいました。主との歩みにおいて、従順が、常に祝福をもたらすことをご存知ですね。神は、あなたが信仰に踏み出すために望んでおられる何かを語りかけておられるかもしれません。私たちがしがみつき、手放していない罪なのかもしれません。24 節から 25 節は語ります。敵は谷のあちこちに散らばり、神の民は敵の残した戦利品をすべて集めます。この戦利品を集めるのに 3 日かかりました。私の祈りは、あなたが毎日祈りによって主を求めること。心を尽くし、思いを尽くし、魂を尽くし、力を尽くして主を礼拝し、主からの戦利品と祝福を集めますように。最後に 26 節、

一II 歴代誌 20 : 26ー

四日目に、彼らはベラカの谷に集まり、そこで主をほめたたえた。それゆえ、人々はその場所の名をベラカの谷と呼んで、今日に至っている。

一II 歴代誌 20 : 27ー

ユダとエルサレムの人々はみな、ヨシャファテを先頭にして、喜びのうちにエルサレムに凱旋した。主がその敵のことで彼らに喜びを与えられたからである。

一II 歴代誌 20 : 28ー

彼らは琴、豎琴、ラッパを携えてエルサレムに入り、主の宮に行った。

彼らは戦場で神を賛美し、神に感謝しました。そしてエルサレムに行き、そこで主に感謝しました。彼らが最初にしたことは、主の家、神殿で賛美を通して主を礼拝し、感謝することでした。それが常にカポノの賛美で教えを締め括る理由です。私たちは、栄光と誉れと賛美を神に、それがふさわしいお方にお捧げします。この礼拝堂（聖域）で、あるいはオンラインの方で、もし救われていないなら、イエスに話しかけてください。主に来ていただき、あなたを救ってくださるようお願いしてください。イエスはあなたを大変愛しておられます。それでは、ご起立ください。祈りましょう。カポノにこの勝利を主に感謝するようお願いします。

お父様、あなたの御座の前に参ります。主よ、私たちはあなたを礼拝でき、直接あなたの御もとに行けることを感謝します。祈り、あなたの御顔を求め、私たちが必要とするすべて、あるいはどんなことについても、御座に願い求めます。主よ、私たちはあなたを大変愛しています。私たちは決して十字架を忘れません。主よ、第一礼拝の学び通り、イエスよ、私たちはあなたが神であられることを決して忘れません。父、子、聖霊の三位一体、本当に感謝します。ありがとうございます。主よ、私たちはあなたを本当に愛しています。あなたが天と地を創造されたとき、私たちのことを心に留めてくださったことを感謝します。私たちの日を祝福してください。私たちを見守ってください。主よ、家への道中、憐れみをお与えください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii 筆記 hukuinn7